



いいざか かずや
飯坂 一也
(公明党)

● 道路の危険箇所への計画的な対策を ● 市民参画意識の醸成を

質問 道路における危険箇所に対しては、計画的に一定の基準のもとに対応すべきである。

市長 平成22年9月に内規として「道路整備の優先順位設定基準」を定めている。地域バランス等も考慮しながら、評価点数の高い要望から優先整備している。

質問 要望を聞く会のために、費やす時間と労力は相当なものである。要望を聞く会で、毎年取り上げても、方向性すら示されない案件もあるのではないか。

市長 要望を聞く会において、一番多いのが、道路の整備や改良に関することである。予算面から対応できないところも多くあり、苦慮している。

質問 予算面はどうなのか。

市長 地区要望に対する道路の予算は通常5千万円だったが、本年度は8千万円の予算措置を取っている。この範囲内で一件でも多く対応していきたい。全てに対応するには十数億円が必要になる。財政再建に取り組みながら、少しでも多くの予算が



2月に開催された協働のまちづくりフォーラム

投入できるように努めたい。

質問 協働のまちづくりにおける、市民参画意識の醸成および住民主体の地域づくりをどのように推進していく考えか。

市長 振興会組織の持続的な発展のためには、地域づくりの担い手の育成が喫緊の課題と考える。民主的な組織運営や話し合いの進め方の技術を高めるための研修事業を実施する。

地域づくり活動に、かわることで得られる充実感や達成感が地域への愛着や誇りを深めていく。こうした動きが、地域づくりを活発にさせていくと考える。



さとう かつお
佐藤 克夫
(創政会)

● 奥州市の将来像

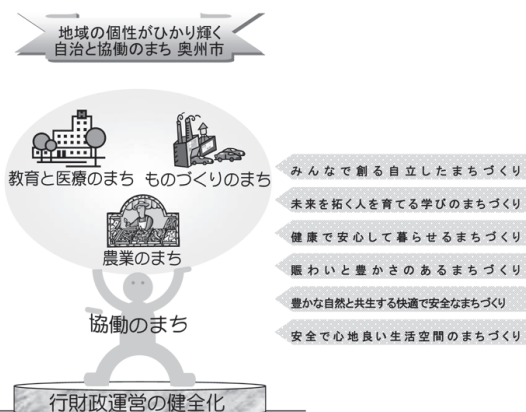
質問 合併後の都市像として掲げてきた「歴史息づく健康・福祉のまち、産業の力みなぎる副都」。農業はじめ、工業・商業ともに県内上位にあり頑張れば副都も夢でないと、目標にしてきた都市像をかえる理由は何か。

市長 めざすべき都市像として、市民憲章の理念が示す、生き生きと働き・自ら学び・健康と笑顔のあふれるまちとし、そのために行政改革・協働のまちづくりによる市民力・地域力を高める。その上に日本一の農業ブランドづくりや、天文学をはじめとする学術研究都市等のまちづくり等「地域の個性がひかり輝く自治と協働のまち」を都市像に描いている。

質問 高齢者福祉の重点は何か。

市長 老人クラブの育成、特に若手の会員増を支援していく。安心安全を守る「見守り活動」を充実していきたい。民生児童委員・ご近所福祉スタッフ・自治会(町内会)等

めざすべき都市像の実現(イメージ図)



奥州市総合計画基本構想より掲載

との連携を深め、地域福祉活動を通して、すこやかで、心豊かな協働のまちづくりを目ざしたい。地域包括システムの一層の充実をはかっていく。

質問 学校支援地域本部が地域の教育力をどう高めているか。

教育委員長 市内の5中学校を中心に学校・地域「協働」による体験活動・放課後活動・学習支援活動それに見守り活動等をスタートしている。今後はPTA・生涯学習センター・放課後子ども教室等と連携しながら、地域の教育力を高め、子どもたちの活動を支援していきたい。